

元気ある町、大和町

ぼくが住んでいる大和町。五年生の総合的な学習の時間に、「大和町の元気開発人を調べよう」という学習を行いました。その中で、桃やレンコンを作っておられる地域の方から話を聞きました。そこで、桃の種類やレンコンの特徴などを教えていただくとともに、生産者の思いにふれました。ぼくも、大和町の桃やレンコンを大切に、大和町をもっと元気にしたいと考えるようになりました。

六年生になり、児童会会長となったぼくは、この思いを形にするため、「あいさつ運動」という取組を行っています。この「あいさつ運動」には、「おとめのあいさつ」をするという目標があります。「おとめのあいさつ」とは、「大きな声で」「止まって」「相手の目を見て」あいさつすることです。このあいさつができることによって、元気のある小学校、元気のある大和町になると思うからです。地域の方と、「おはようございます」「ただ今帰りました」とあいさつをすることで、コミュニケーションを取る事ができます。そうすると、自然と会話がはずむようになり、元気のある大和町につながっていくと考え、今一生懸命取り組んでいます。

また、毎年六年生が行っている大和小学校の伝統の一つとして太鼓もあります。今の状況だからこそ、熱心に練習に取り組んでいます。今年も、ぼくたちがデザインしたTシャツを作りました。このTシャツを着て、地域や保護者の方々に元気を届けることができるようにしたいと思います。はやく発表できる日が来ることを楽しみにしています。

ぼくは、これからもあいさつ運動、太鼓などの伝統を大切に、大和町が元気になるように取り組んでいきます。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第44回 —

パワーが降り注ぐ絶景の町

窓からは淡い朱色の朝日が差し、辺りからは鳥のさえずり聞こえる。「今日も一日頑張ろう」。みなさんは、須波という町をご存知ですか。周りには海・山・空が広がり、登校中に見える朝霧から顔を出す朝日は、今日も頑張ろうというパワーを与えてくれます。「おはようございます」「おはよう」。地域の人への挨拶も欠かしません。気持ちよく挨拶ができると、心なしか朝日ももっと輝いて見えます。

私が通う第四中学校では、毎月一週目の金曜日に挨拶運動を行っています。すがすがしい挨拶は一日の始まりに弾みをつけてくれます。

「総合的な学習の時間」では、「三原市について」をテーマとし、その中で須波についての歴史や観光名所について調べました。須波の観光名所の一つ、筆影山・竜王山は瀬戸内海国立公園にも指定されています。私自身何度か登ったことがあります。頂上からの景色は見惚れるもので、展望台からはたくさん島の島が眺められます。

このような素敵な須波の町をもっとたくさんの人に知ってもらって、歴史や伝統などを引き継いで、須波の町がこれまで以上に発展していったほしいし、また須波で暮らしてみたい、学んでみたいと思う人が増えたいと思います。

